

視点(923)

ガンバレ日本経済!!

2008年世界競争力版

スイスの有力ビジネススクール、IMD(経済開発国際研究所、本社ローザンス)が発表した2008年世界競争力年鑑は次の通りです(2008年5月15日、日本経済新聞社より)。

国名		評価内容
1位	米国	IMDは55ヶ国から統計や聞き取り調査の集計を行った 内容は「マクロ経済」「政府の効率性」「インフラ」の4分野で331項 日本の主な項目別の順位
2位	シンガポール	
3位	香港	
4位	スイス	
5位	ルクセンブルグ	
6位	デンマーク	
7位	オーストラリア	
8位	カナダ	
9位	スウェーデン	
10位	オランダ	
11位	ノルウェー	
12位	アイルランド	
13位	台湾	
14位	オーストリア	
15位	フィンランド	
16位	ドイツ	
17位	中国	
18位	ニュージーランド	
19位	マレーシア	
20位	イスラエル	
21位	英国	
22位	日本	

1位	消費者の満足度
3位	従業員の訓練
4位	インフラ
1位	中等教育の就学率
1位	平均寿命
3位	企業の研究開発費支出のGDP
3位	特許の生産性
22位	マクロ経済
55位	旅行収入のGDP比

日本の経済力は昨年の24位から22位へと向上しましたが、日本経済の過去の最高時期(バブル経済崩壊の直前)の1989年は世界一であったことを考えれば満足できる数字ではありません。

世界55ヶ国の競争力の評価は評価基準の数値によって大きく異なり、世界の大国でない国々が上位を占めていますが、何と言っても競争力第1位は世界の覇権国家である「アメリカ」であり、日本は、ドイツ、中国、イギリスより下位にあることは問題です。

まして、1989年の第1回世界競争力年鑑では日本が第1位であったことから、日本の競争力がこの19年間に大幅に低下したことは事実です。1985~1991年の日本のバブル経済は30%がバブル(あわ)であったと言われており、私は1993年に日本の経済を70%経済と名付けました(1993年、流通とS C・私の視点12参照)。その意味から見て、2005~2007年に至り、バブル経済時代のバブル分を実体経済(バブルではない経済)に変え、やっと名目レベルでバブル経済時代(1991年)に回復した結果が、今回の世界競争力順位位の姿と思われまふ。実は1989年の競争力1位は、バブル分30%を除くと、1989年時点でも20位だったと私は思います。それゆえに、日本の経済や流通の1991~2006年までの15年間を失われた日本経済の時代と呼ばれています。実は、アメリカでは1992年から世界初の新産業としてのITによる経済の大発展期を迎えました。トフラーは『第3の波』という書物で、人間の第1の波は「火」を使い始めたこと、第2の波は「蒸気」(石炭、石油、電力、原子力)を使い始めたこと、第3の波は「コンピューター」(情報)を使い始めたことと述べています。まさに、アメリカは第3の波のITをビジネス化し、経済の基軸とした史上初の経済国家となったわけではなな。

日本も1991年のバブル経済崩壊時の原点に戻り、今年の競争力の1~3位になった得意分野である「消費者の満足志向」(日本人のやさしさときめ細かさのビジネス化)、「従業員の訓練の高さ」(勤労は美德とする考え方のビジネス化)、「中等教育の就業率の高さ」(脳の活用による生産性の向上のビジネス化)、「企業の研究開発費支出のGDP比の高さ」や「特許の生産性」(知的所有権のビジネス化)、「平均寿命の長さ」(活齡=イキイキする年齢の長期化の消費及び労働のビジネス化)を行い、もう一度、世界一の座に就こうではないですか!!

(株)ダイナミックマーケティング社³
 代表 六 車 秀 之